

平成23年度畜産技術振興センター組織目標

目標	目標設定の理由	平成23年度の目標値	到達すべき目標値	平成23年度の目標達成に向けての手段・方策
近江牛の生産基盤の拡大	当センターで生産された優良な雌子牛を繁殖農家に譲渡するとともに、生産性をいっそう向上させるための技術確立を図り、近江牛の生産基盤を継続的に拡大強化する必要がある。	繁殖雌牛飼養頭数:135頭 子牛生産頭数:110頭 子牛育成技術の向上:6ヶ月齢体重180kg	H32年度県内繁殖和牛飼養頭数: 1,650頭 (滋賀県酪農・肉用牛生産近代化計画)	繁殖牛の計画的な淘汰更新と高能力繁殖素牛導入による繁殖牛の増頭と遺伝的能力の向上を図る。 「定時人工授精技術」「超早期母子分離飼育」を活用した分娩間隔短縮と子牛生産の効率化を図る。 乳酸菌製剤の育成期への影響を明らかにし、哺育期から育成期にかけての影響を明らかにする。
	胚移植技術を活用し、乳用牛による和牛生産を推進し、酪農経営体を近江牛生産基盤の一つとして、拡大定着を図るとともに、併せて、酪農家の副収入を増加させることにより、県内畜産農家の経営安定を図る必要がある。	胚供給個数:300個 受胎率:45%	H32年度肉専用種肥育牛飼養頭数:13,000頭 (滋賀県酪農・肉用牛生産近代化計画)	育種価評価を活用した優良な胚の効率的な生産を行う。 胚凍結保存技術の改良に向けた耐凍剤の検討を行う。 生産者団体を含む受精胚の生産から産子の流通までの組織体制を維持・強化する。
飼料の県内自給の強化	輸入飼料価格の高騰や急変に対応するために自給飼料基盤に立脚した経営への転換が急務である。そこで、水田を自給飼料生産基盤として活用し、飼料用稲および飼料用米の生産に取り組む必要がある。	飼料米サレ-ジの安定生産利用技術の確立および長期保存技術の向上・改善	H32年度飼料用稲作付け面積:500ha H32年度飼料用米作付け面積:675ha (滋賀県酪農・肉用牛生産近代化計画)	飼料用米サレ-ジの安定生産利用技術を確立するための調査研究や農家で生産されたものの品質評価、成分分析を行う。 飼料用米サレ-ジの長期保存技術の向上を図るため、乳酸菌の添加効果および原料形態の差異による発酵品質の検討を行う。
	飼料用米の乳用牛および肉用牛への給与量とその影響を明確にし、県内生産される飼料用米の効率的な活用方法を確立する必要がある。	乳用牛における飼料用米給与による産乳量、乳質への影響の検証 肉用牛における飼料用米給与の肉量、肉質への影響の検証	乳用牛および肉用牛への飼料用米給与技術の確立	乳用牛の全泌乳期に給与される濃厚飼料の25%を飼料用米に代替し、その嗜好性、産乳量、乳質を重点にデータ蓄積と検証を行う。 肉用牛に給与される濃厚飼料10～15%を飼料用米に代替し、飼料給与と期間を拡大することにより、飼料摂取量の増加と増体、枝肉重量、肉質評価および官能評価を実施し、飼料用米給与の影響を明らかにする。
和牛放牧の推進	放牧によって、耕作放棄地の荒廃や獣害被害に悩む集落を支援する。	耕作放棄地等における和牛放牧実証地:15箇所	耕作放棄地における和牛放牧実証地:15箇所	放牧実施集落への技術的支援を行う。 繁殖和牛の貸し出し、譲渡を行う。 放牧地における牛の行動調査を行う。